

自己実現2024

兵庫県立神戸高等学校 進路指導部

3年生で実施する実力考査は5回あります。①第1回実力考査(4/12~13)実施済み。
②第2回実力考査(6/12~13) ③第3回実力考査(9/1, 4) ④第4回実力考査(9/29~30)
〈第2回駿台・ベネッセ模試で代替〉 ⑤第5回実力考査(11/8~9)で判定資料に用いる語句
説明を以下に記します。

[A%・B%成績]

3年生の実力考査は、成績結果を「A%」・「B%」という数値で表示します。さらに、その成績にもとづき神戸高校独自の可否追跡調査を行い、資料を作成しています。

「A%」成績は次のように算出します。

文系 (国:200+英:200+数:200+社:200+理:100) / 9

理系 (国:200+英:200+数:200+社:100+理:200) / 9

◎第1回実力考査は、「倫理、政治経済」が未実施なので、それを除いたデータで算出しています。

「B%」成績は、校内実力考査(記述模試)のデータのみ利用し、次のように算出します。

文系 (国:200+英:200+数:200) / 6

理系 (英:200+数:200+理:200) / 6

可否追跡調査に用いる総合成績は、第3回~5回の実力考査の各科目の平均を算出し、「A%」・「B%」成績の算出式に代入します。

「A%」成績が5教科の総合的な実力(大学入学共通テストの得点状況と密接な関連があります)を示すのに対し、「B%成績」は国公立大学の二次試験の実力を示す数値です。

[第1回実力考査教科・科目別講評]

<国語>

現代文分野では、論説的な文章の中で重視されるカタカナの現代用語を出題したが、得点率は20%を少し越える程度で、普通科の理系では17%という低さであった。現代用語のキーワードの意味はしっかり理解しておかなければならない。一方で、長文読解の記述解答方式の問いにおいては、少しだけではあるが粘り強く記述している人が増えていた。字数の規模が大きな記述問題でも、部分点を得点することが総合計点を膨らませることに繋がることをこれまでに何度も述べてきたが、今回はその努力傾向が見えたことは喜ばしい。

古文分野では、これまでにどのように取り組んできたか、春休みにどれぐらい基礎の徹底を意識した学習ができたかが結果に顕著に表れた。かなり力の差がついてきている。基本語彙の意味、基本文法を覚えなければいつまでも勝手に勝手な解釈のもとに話の内容をでっち上げ、的外れな解答をすることになる。できるだけ早期に基礎固めをしなければならない。

漢文分野でも古文分野と同様に、句法・語法の基礎知識の定着に時間を割き、長文読解に活かすことができるようにしなければならない。漢文で得点を伸ばす努力を積んでもらいたい。

<数学>

文系120分、理系150分の試験で実施したが、まずは受験には体力も必要であることを忘れずに、**1**以外は記述式の問題であったが、小問に分かれている場合は、最初は基本的な内容であることが多い。また、入試問題といえども基礎・基本事項をもとに構成されていることがほ

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現2024]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

とんどである。各分野の基礎基本をしっかりと理解し、4step やチャート式などの問題演習を通して頻出事項を確認してほしい。今回の問題でいえば、場合の数における数え上げ、微積分の軌跡の通過領域の変数の扱い、理系の Σ を含む式の具体化、極限における無限級数の求め方、複素数の実数条件、文系の空間ベクトルの正八面体の性質、軌跡の反転とそれぞれの問題の基礎基本事項を抑え、その問題の本質をしっかりと理解して、じっくりと問題に取り組んでほしい。

また、解答を丁寧に書くことも意識しよう。文字を設定するとき、その文字は実数であるのか整数であるのか。変数の置き換えをしたとき、その変数のとりうる値の範囲は示されているか。また、表や図・グラフをかくときも実線や破線を使い分けたりすること。そして何よりも、式の羅列にらず言葉で補足することも忘れないようにしよう。

<英語>

【No. 1】の「課題長文」では、代名詞が指すものを明確にし和訳する問題や内容に関する日本語での記述問題の正答率が低く、いずれも **30%**程度であった。英文読解に関しては、筆者の意図を理解し、英文の全体像を正確に把握できるよう、表面的ではなく、深い読みを日頃から心がけてほしい。ただし、制限時間のある実際の入試において、頭の中で上手な訳をしながら読んでいく時間的余裕はないので、センテンスの内容を瞬時に捉えながら読み進めていく練習を積む必要がある。同様のことが「実力長文」にも言える。今回の実力長文は語数制限のある記述式が多く、全く手の出していない人も多かった。難しい英文ではあったが、今回のような論説文に対して、パラグラフ同士の論理関係を理解しながら読み進めることが大切である。日頃からただ漠然と英文を訳すのではなく、論旨を頭の中で整理しながら読んでいく論理的速読が必要になってくる。

【No. 2】の文法は前回とほぼ同じ正答率であった。和訳、英訳の正答率がかなり低かったが、英文和訳に関しては、英文の正確な構造分析に基づき、文脈をヒントにして自然な訳語を選択していく練習が必要。和文英訳については基本的な出題に関わらず正答率 **9.2%**と低かった。基礎的文法の運用、語彙の拡充は必須であるので、日々の授業での基礎的内容をとりこぼすことなく学習を積み重ねてほしい。

<理科>

物理 ■受験者 144 名、平均 33.7 点 普通科 28.5 点、総理 49.1 点 最高点 88 点

波動までの範囲、基本的な問題を中心に出题した。全体の平均は問題のレベルを考えると低かった。特に、総理はすでに電気磁気の範囲も終わっているため問題が簡単すぎたか、と思われたが期待外れであった。最高点も普通科の生徒である。本格的な復習に取り掛かれていないようで、春休み中、何をしとったのか。以下、全体の答案について。

①の(1)では静止する物体にはたらく力を図示させた。正答できなかったものが少なからずいた。力の図示が正しくできなければ以降の問題ができるわけがない。当然、(2)以降の運動方程式は立てられない。②は、剛体のつりあいであり正答率は高かったが、逆に、この問題を正答できなければ苦しいであろう。③は共鳴とドップラー効果の組み合わせであったが、公式を正しく使えるようになっていない人が多い。④は気体の循環過程の、内容は定番ではあるが設問はやや変化球的であった。とはいえ、正答できなかった人は問題文や空欄のある文章を正しく読み取っていない。⑤は普通科にとっては **2年3学期**に学習したところで、正答率は高かった。問題のレベル、分量と時間等を考えると、平均点は低い。**80点**以上得点した人も少ない。物理は集中して考える力、持久力が必要である。**3年次**は授業時数も多いので、授業を通して

<保護者の方々にも読んでいただきます>

[自己実現 2024] など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

集中して取り組むことのできる力を養成してほしい。また、基礎基本が理解できてこそその応用である。進路講演会でもあったように入試問題は難問ばかりではなく、解かなければならない問題が必ずある。正答すべき問題は必ず獲る、という気合を持ってほしい。

化学 ■受験者 230名 平均 40.3点 (最高点 88点)

大問数は4題、いずれも基礎的な理解が必要な問題である。第1問は共通テスト形式の問題であり、基本的な内容ではあるが正確さと速度が求められる。第2問は連結球を用いた気体の計算問題であり「気体の状態方程式」「蒸気圧」など、いずれも頻出問題であり、入試では確実に正解すべき問題である。第3問は、「電離平衡」と「電気的中性の条件式」から酸性雨のpHを求める問題である。見慣れない式もあるが、誘導に沿って計算することで解くことができる。第4問は17族からの出題である。無機物質は性質や反応式を問われ暗記すべきことが多いが、繰り返し練習することで、確実に正解することができる。

特に正答率が低かった問題は以下である。

- 第1問(3)(10) 量的関係を式やグラフで求める問題。いろいろな表現があるが原則は「濃度の公式」「モルと係数の関係」を元に考える。
- 第2問 問5, 6 容器内のH₂Oが液体として存在するかを説明する問題。計算法はあっているが、結論までたどり着いてない回答も多い。頻出問題なので解法を見直してほしい。
- 第3問 問2, 3 入試においては既知の式が出るとは限らないので、問題文の誘導をしっかり理解する練習が必要である。
- 第3問 問4, 第4問 問5 化学反応式。無機物質や有機化合物の範囲では、暗記すべきことが多いが、暗記すれば確実に答えることができる。「弱酸の遊離」等反応パターンでまとめて覚える反応式もあるので、確実に答える。

授業では「理論化学」「無機物質」を学習済みで、その分野の演習は可能である。基本事項・演習を繰り返すことで、実力を身に着けることができるので、粘り強く取り組んでほしい。

生物 ■受験者 88名 平均 39.4点 (最高点 88点)

大問数は5題、中堅国公立個別学力試験、私立大学入試レベルの問題である。授業で詳しく解説した通りである。知識で解決できる問題や計算問題はある程度の定着がみられ得点できていたが、論述問題に対応する力は、まだ、十分に育成されていない。

第1問 神経系に関する問題 計算問題は得点源である。答えがはっきりしている。

第2問 輸送体の問題 問題の内にある実験で無駄な実験はない、3つの実験を分析し考察する。

第3問 代謝の問題 キーになる物質の化学式を押さえておけば、組み立てればどのような物質の出入りがあるかわかる。

第4問 免疫 生物基礎と生物の両方の要素がある問題。論述問題については、何が問われているのか授業で解説した通りである。

第5問 ホルモンと情報伝達 ホルモンは情報伝達物質である。体内、細胞内の情報伝達について生物基礎と生物の両方の要素がある問題。2年生でレベルの高い内容を学習した理由をわかってもらいたい。

教科書は間もなく終わります。実践的な入試問題の演習に入ります。問題の構造については、今回から授業でも解説しています。教科書の内容を理解していても、それではなかなか入試では通用しません。これから実践力をつけましょう。

〈保護者の方々にも読んでいただきますよう〉

[自己実現2024]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

物理基礎（総合物理） ■受験者 29 名、平均 29.6 点 最高点 42 点

全般に、基本的な事項を問う問題で、計算問題がやや少なかったからか、全体としては得点できていた。⑦は実際に1年次の3学期に実験を行ったものの応用問題であるが、これは正答率が低かった。⑧も消費電力の問題でよく取り上げられる。このあたり生活や実体験に基づくものが多く、頻出の項目でもあるので、教科書を読みこみ理解しておくことが大切である。①～③、⑤は必出の運動と力学で、基本的な問題でもあるので時間をかけずに解答できるようにしてほしい。

物理基礎の内容は決して多くない。1学期で教科書の全内容を復習し、夏休み以降、まずは時間を気にせず間違いやミスをしないように問題演習を行う。共通テストへの慣れやスピード養成は2学期途中からになる予定である。「授業以外では物理はしない」という心意気で取り組んでもらいたい。

化学基礎**■受験者 103 名 学年平均 13.34 点（1組 11.57 点，2組 13.88 点，3組 14.62 点）****■最高点 35 点 1 名 30 点以上 3 名 10 点未満 28 名**

20点前後の平均点を想定していたが、予想より大きく下回った点数となった。1年時に学習した内容なので、多くの者が学習した内容を忘れていたり予想される。得点が1桁の者が27%もいるので次回はしっかり復習して臨んでほしい。

第1問 小問集合

基本的な知識を問う問題なのでしっかり復習して抜けのないようにすること。特に問9は正答率が低く（7%）塩基のモル濃度、体積が文字で与えられているため文字を含んだ形で計算しなければならず、希釈もしているため正答率が低かったと予想される。※2023年共通テスト第1問の問9から出題（75回生正答率49%）。計算を要しない、知識を問われる問題でどれだけ正答するかが得点アップの分かれ目である。

第2問 実験結果に基づいて考察する力を求める問題（二段階中和）

水酸化ナトリウムに変化した炭酸ナトリウムを含む、炭酸ナトリウムの二段階中和の実験に関する問題。実験操作に必要な器具の扱い方、pHの変化による溶液の色の変化、グラフから必要な値を読み取る力、読み取った値を利用して計算する力が求められた。二段階中和は珍しい出題だが、上記の要素はどれも化学基礎の教科書に載っている内容なのでしっかり復習してほしい。

生物基礎 ■受験者 78 名 平均 19.6 点 最高点 38 点

1年次に学習した授業内容の復習がまだできておらず、平均点は4割に満たない。生物用語を正確に理解しておけば、まず6割程度は得点できる問題であろう。特に、Ⅰ（マイクロメーター・DNA）の計算問題は定番で、確実に解けるようにしておきたい。また、Ⅱ（左心室内圧と容積）やⅢ（森林と樹木）などのグラフの読み取りは共通テスト対策として欠かせない。

文系の諸君にとって生物基礎の学習に費やせる時間は多くないはずだ。とにかく今後の授業を大切にしてほしい。1学期は教科書の内容を復習しながら基礎力を積み重ね、2学期は問題演習を通じて応用力を養成する。さらに、今後行われる考査や模試の問題は必ずやり直し、わからないところは質問に来ること。一緒に頑張っていこう！

<保護者の方々にも読んでいただきますよう>

[自己実現 2024]など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。

〈地歴〉

世界史 ■平均 42.6 点 (文系 43.4、理系 40.9) 最高点 87 点 最低点 13 点

今回の考査では、2年の学習範囲から二次試験を意識した論述問題1問と共通テストを意識した正誤問題11問、その他の問題88問を出題した。全体として、基礎知識を前提とする問題構成としたが、復習が不十分であろうと思われる。範囲となった近現代史は、入試頻出単元が多く、課題だけでなく『重要語句 CheckList』も活用して、反復して学習しておく必要がある。今回は地図問題を1題のみとしたが、写真や地図・図表などもしっかり見て慣れておくべきである。特に不調な者は、森を眺めて木々を見つめる感じで、流れの把握に留意してほしい。

日本史

共通テスト問題に準じた正誤問題、私大問題に準じた一問一答問題、国公立大学二次問題に準じた簡単な論述問題、春季課題の旧国名等を出題しました。平均点は50.0点でした。課題の旧国名はよくできていましたが、実力問題の方、特に受験生が苦手な経済史、文化史の問題の正答率が低かったです。まだ社会のほうにまで勉強が進んでいないように思われます。日々の授業ならびに今後実施する小テスト(文系)に全力に取り組みましょう。地道な努力が成績向上につながると思います。

地理 ■平均 42.1 点 最高点 89 点 最低点 20 点

今回は2年生での学習事項を網羅して出題した。基礎的な学力があまりない生徒も散見されるが、国名からしっかり取り組んで、共通テスト本番まで、地理的な学力を身につけて欲しい。ただし基礎的な学力が泣ければ、いつまでたっても問題を解く力は身につかないということも自覚して欲しい。今回60点以上の生徒は十分地理の力はある。

■まとめ：『成績のいい人はテストの見直しをしている！』

テストは結果ばかりをみるのではなく、間違った問題を必ず見直しをすること。間違い直しは最も効率のいい学習法です。見直しをしないのはとても損をしていることに気がつかない人は次のテストでは残念な結果に終わるかもよ…。わからないところは先生に質問してください。

期	月	定期考査	実力考査	業者模試など
1 学 期	4月		第1回実力考査 4/12, 13	
	5月	中間考査 5/19~25		
				業者模試(進研マーク) 6/2,3
	6月		第2回実力考査 6/12, 13	
夏 休 み	7月	期末考査 6/29~7/5		
	8月			業者模試(全統マーク) 8/17, 18

【後記】 3年生になって初めての校内実力考査の結果はどうか?人によっては2年生の時の成績から、かなり変動がありました。日々の取り組みの違いが少しずつ積み重なって大きく成績の差に現れたのだと思います。次の校内実力は6/12(月)・13(火)です。その前の6/2(金)放課後と6/3(土)全日に「進研総合学力マーク模試」があります。今回の成績に満足がいけない人は、自分で1か月の計画を立てて、次のテストまでに着実に学習を進めてください。進路指導室前に置いている『学習記録表』も活用してください。テスト結果が今一つだった人は「人と比べて自分をみるのではなく、昨日の自分より一歩だけ前進していればいい!」と前向きに考えましょう。新入生が部活動に加入し、部活動にも活気が増えています。後輩たちに技術面だけでなく勉強の面でも尊敬される先輩を目指しましょう。疲れていても予習、復習を欠かさず、毎時間の授業に集中し、居眠りなど決してしない先輩こそ尊敬される先輩です。新入生から全ての意味で憧れの先輩となれるよう、『第一志望に現役合格』を果たしましょう。

〈保護者の方々にも読んでいただきますよう〉

〔自己実現2024〕など進路指導部が発信する情報の一部を神戸高校HPでも閲覧できます。